

研究課題名：エムボックスの臨床疫学解析と迅速診断検査系の開発

研究の目的と方法：

エムボックスは、発熱、頭痛、リンパ節腫脹、水疱等を呈する感染症です。2024 年 11 月時点で、アフリカにおいて流行しており、世界保健機関（WHO）が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（Public Health Emergency of International Concern: PHEIC）」を宣言しており、エムボックスの病態の把握や迅速検査系の検討をすることが重要です。

日本においては、感染症法における 4 類感染症に分類され、全数の届出が必要な疾患です。2022 年 7 月 25 日に日本国内で初めて患者が報告され、200 例以上の報告がされておりますが、2024 年 3 月以降、日本国内では症例数が減少しており、症例情報と患者検体を十分な症例数収集することが困難な状況にあります。

そこで、国立国際医療研究センターが実施している新興・再興感染症データバンク事業ナショナル・リポジトリ【Repository of Data and Biospecimen of Infectious Disease (REBIND)】で収集された臨床疫学情報と患者検体を用いて、臨床疫学情報を収集すること、及び、迅速抗原抗体検査の有用性を明らかにすることを目的に本研究を計画しました。本研究の結果は、エムボックスの感染予防対策に有用な知見をもたらし、社会的意義が大きいと考えられます。また、研究の成果は学会や学術誌にて発表することがあります。その際、対象者の氏名等個人が特定できるような情報が公表されることは一切ありません。

研究の対象者及び対象期間：

REBIND 事業に登録され、国立感染症研究所に診療情報及び検体が提供された方
令和 6 年倫理審査承認日から、令和 11 年 3 月 31 日まで

研究に用いる試料・情報：

特定の個人を識別できない状態になったエムボックス検査陽性及び陰性症例の診療情報、検体（血漿、水疱ぬぐい液、咽頭ぬぐい液、唾液）が、REBIND から国立感染症研究所に提供されます。検体（PBMC、糞便）、病原体ゲノム情報とヒト全ゲノムは提供を受けません。

研究組織：

研究全体の管理責任者 国立感染症研究所

薬剤耐性研究センター・第四室長（実地疫学研究センター併任）

山岸 拓也

主任研究者 国立感染症研究所

応用疫学研究センター・主任研究員

加藤 博史

TEL: 03-6261-4498 FAX: 03-6261-0189

(応対可能時間：平日 9 時～17 時)